

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0372100974		
法人名	医療法人 徳政堂		
事業所名	グループホーム きらら		
所在地	〒028-4304 岩手県岩手郡岩手町大字子抱8-110-7 (電話) 0195-61-2022		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7-30		
訪問調査日	平成20年12月19日	評価確定日	平成21年4月8日

## 【情報提供票より】(平成20年12月2日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤	人, 常勤換算 7人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,900 円	その他の経費(月額)	水道光熱費9,000円(30日) リネンリース代3,000円(30日)
敷金	無	有りの場合 償却の有無	有/無
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	950 円	

### (4) 利用者の概要(12月2日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87.6 歳	最低 80 歳	最高 96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐渡医院、三宅歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームきららは、広い前庭で、又は日当たりの良いベランダで、花畑と菜園で囲まれた中で姫神山を眺望しながら思いを過ごすことのできる最適な環境にある。ホームの運営理念である「管理しない、壁をつくらない、入居者、職員が共に暮らす」の下で、地域の人々との交流を図りながら、笑顔で過ごすことのできるグループホームを目指している。職員は、その実践に向けて利用者のそれぞれの思いや意欲に沿った支援に努めている。職員は笑顔の中で利用者の健康状態を気遣いながら、一人ひとりのペースや思いに沿ったケアの提供に努めている。特に、ホームでは地域の方々との交流を大切にしており、地域の方々も「東屋」整備にみられるようにその受け入れに見事な配慮が見られる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で話題となった共用スペースの活用について検討が行われ有効利用の改善が図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価では管理者が中心となってまとめている。職員全員で取り組むプロセスを通じてケアのあり方など、共通の認識が高まることから今後は取り組みたいとしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議のメンバーには自治会長、老人クラブ会長、地域包括支援センター、民生委員、家族の代表等で構成され、行事報告や活動内容の報告が主である。委員からは、地域の情報や、自治会からの活動助言等が出されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族に月1回の来訪をお願いし、その際に家族との情報交換をするように努めている。遠方の家族には、手紙で利用者の近況等を報告するほか、体調変化などには適宜連絡を行っている。なお、預かり金は台帳で管理して、家族来訪時に説明しながら確認を得ている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に地域の一人として加入し、日常的に回覧板等を通じて地域情報を得て地域との参加・交流をしている。特に、利用者が町内出身者が多いため自治会が「東屋」を整備したときは、利用者が利用しやすい場所の選定に配慮し、又落成式にも参加させて貰うなど、地域からの呼びかけや支援が積極的に行われている。

## 2. 評価結果(詳細)

確定日 平成21年4月8日

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の尊厳と地域との交流等を大切にする「入居者、職員が共に暮らす」、「管理しない、壁を作らない」、「介護度を下げるような関わり」、「生活面全てで自立する方向へ」、「施設外の人々との交流」の独自の運営理念をつくり上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の意図を活かした「皆が笑顔で生活できるグループホーム」を目指しており、その実践のため、日頃のミーティングを重視している。その際に利用者の意向等を必ず話題にしてその実現に向けて「急がず、ゆっくりでいい」をキーワードに日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に地域の一員として加入し、日常的に回覧板等を通じて地域情報を得て地域との参加・交流をしている。特に、自治会が「東屋」を整備したときは、入居者が利用しやすい場所の選定に配慮し、又落成式にも参加させて貰うなど、地域からの呼びかけや支援が積極的に行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については管理者がまとめている。また外部評価の結果を職員全員で検討して、改善に結び付けている。	○	評価の内容や意義について職員に周知されているが、職員のケアの振り返りや見直し等を図る機会として、職員全員で自己評価に取り組むことなどを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーには自治会長、老人クラブ会長、地域包括支援センター、民生委員、家族の代表等で構成され、行事報告や活動内容の報告が主である。委員からは、地域の情報や、自治会からの活動助言等が出されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回のケア会議に出席するほか、施設の連絡会、役場主催の懇談会にも積極的に参加している。また町主催のボランティア教室の施設見学に協力するなど、町とは相談や意見交換等を行う関係が築かれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に月1回の来訪をお願いし、その際に家族との情報交換をするように努めている。遠方の家族には、手紙で利用者の近況等を報告するほか、体調変化時などには適宜連絡を行っている。なお、預かり金は台帳で管理して、家族来訪時に説明しながら確認を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面会時にできるだけ率直な意見、要望を表せるように配慮するとともに、ホームの苦情相談窓口以外の公的機関の相談場所があることを説明している。またアンケートを実施しているが、家族等の意向をくみやすい記述方法の工夫をしてみたいとしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度は法人内のグループホーム間の人事異動があったが、経験豊かな職員を配置するなど、利用者との関わりがスムーズに図られようとしたため利用者へのダメージはみられていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内があったものの中から必須のもの、重要なもの、資格の維持上必要なものなど、研修には積極的に参加させている。その他職員の意向を把握し、勤務調整や休みを当てる方法によって研修への参加を促し、スキルアップに努めている。なお、研修参加後は、伝達研修に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県グループホーム協会の例会や各種研修に参加するほか、ブロック内の交換研修にも参加して、他のホームとの交流で気づき得ており有意義であるとしている。参加職員のモチベーションのアップにつながり、今後も継続したいとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の話し合いやホーム見学などを通して、雰囲気に馴染んでから利用して頂くようにしている。「家が心配だ」と馴染むまで時間を要する利用者には、利用者の思いに耳を傾けて、不安の解消に努めるほか、近所の人に会って話をすることで落ち着くなど、地域の人々の関わりと支援の中で安心して暮らせるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として様々の経験を踏まえていることから、食事づくりや掃除などにおいて、食事の準備の段取りが悪いとか、床拭き方法など、親が子供に諭すように注意を受け、かつ教わっている。このように利用者とは壁を作らず、何でも言い合えるような関係づくりに努めながら、共に支え合いながら過ごしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報のほか、毎日の利用者との会話や、行動、表情などから利用者の意向をくみ取することを大切にしている。日頃と違う行動や言動がある時には何らかの理由や原因があると考え、その意図をより深く利用者の思いや意向を推し量るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	三団体方式をアレンジした事業所独自のアセスメントシートを用いている。また利用者の会話や様子などから、本人の思い等の内容を日々記録している。これらを活用して職員によるアセスメントを行い担当職員で協議して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化や支援方法の変更の必要性を確認するため、毎朝、ミーティングで一人ひとりについて検討している。利用者に状態変化等が生じた場合には、家族等に連絡のうえ計画を見直すとともに必要な対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望に応じて散歩や買い物など、送迎等に必要の支援を柔軟に対応し利用者の楽しみ、満足を得られるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望により同一法人の医師をかかりつけ医としており、2週間に一度の通院や、緊急時には往診を受けている。利用者が、適時適切な医療を受けられるような体制のもとで支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医からは重度化や終末期の対応の在り方についての意見等を聞き、それを踏まえ職員間で話し合いを行っている。話し合いの中で、ホームでの対応をしたいとの職員の思いは強いが、これまで経験や実例がなかったことから、今後は医療面や精神面の援助方法などについて検討・学習をすすめていきたいとしている。	○	今後、一層重度化や終末期への適切な対応が求められることが考えられることから、ホームの取り組み方針を検討し、その在り方について全職員が共有して取り組むことを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人記録管理等については、人目に触れにくいよう配慮をしている。またプライバシーに係る話題を話すときも利用者が特定されないよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての一日の大まかな日程は設定しているが、その都度、各利用者の思い、意向に従い柔軟に対応している。なお、レクリエーション等の参加については不公平にならないよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者との会話の中で話題となった折々の嗜好や季節のメニューを取り入れている。また、食材の購入や、食事の準備、片付けは利用者と職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回としているが、希望がある時にはいつでも入浴できるように支援している。入浴を嫌がる利用者に対しては、いろいろ工夫をして別の職員が声を掛けしたり、タイミングを見て入浴をすすめている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	週3日の買い物のほか、花や景色の塗り絵したり、簡単な計算問題を解いたり、種々な楽しみや気晴らしを支援するなど、記憶やできる力を見つけて豊かに暮らして貰えるような場面づくりに努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩やドライブへ出かけたりして、四季折々の景色を楽しんでいる。また外出は自由としており、外へ出るときは職員が同行し支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、ベランダは施錠せず、自由に出入りできる状況にあるが、利用者が外出する際には職員が付き添い、見守りながら安全な外出を支援している。なお、人の出入りを確認するため、玄関に小鳥の鳴き声がするチャイムを設置している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防設備として自動通報装置を設置し消防署やホーム関係者に自動で通報される仕組みとなっている。また毎月避難訓練を行い、避難場所の確認と避難方法の徹底に努め、緊急時に備えている。特に、夜間は職員が1人体制であることから、緊急時の対応に向けて夜間を想定した訓練を実施している。	○	夜間を含めた緊急時対応については、近隣住民の協力を得ることが大切と思われるので、地元の消防団との協力体制や、近隣住民の参加支援を含めた避難訓練の実施に期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量のチェックを行い、ミーティング等で確認し合っている。また水分量・食事量とも必要量を摂取できるよう声かけによる支援をしている。また、2か月に1度、食事の重量を量り、写真をつけて同一法人内の栄養士よりアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中を主に過ごす食堂の周りには、小上がりになっている畳の間やベランダがあり、コタツでテレビを見たり暖かいベランダで景色を眺めたりと、思い思いに過ごすことのできる空間となっている。時折玄関の人の出入りによって鳴る小鳥の声(自動チャイム)も心地よい。壁には利用者が職員と共に作った作品などが掲示され、和やかな空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の思いや使い慣れたものが身の回りにあることにより安心となるため、仏壇やタンスなどを持ち込んでいる。趣味の造花を部屋に飾ったり、家族写真やぬいぐるみを持ち込み、居心地よく過ごしている。お祭りですくった金魚を飼う利用者のために水槽を提供する支援をしている。		